

京都市におけるマラソン大会開催に関するアンケート調査
報告書

概要版

平成21年12月

京都市文化市民局
市民スポーツ振興室スポーツ振興課

I 調査の概要

1. 実施概要

- 調査方法：アンケート調査（郵送法：調査票郵送，郵送回答，督促なし）
- 標本数：3,000人（市内在住の20歳以上から無作為抽出）
- 調査実施日：平成21年8月26日（水）～平成21年9月9日（水）
- 回収結果

標本数 (A)	回収数 (B)	うち有効回答数 (C)	回収率(%)	
			B/A	C/A
3,000	971	960	32.4	32.0

●調査内容

- ①スポーツへの関心度・スポーツへの取組について（問1）
- ②京都シティハーフマラソンについて（問2～4）
- ③京都シティマラソン（仮称）について（問5～10）
- ④属性

2. 調査結果の概要

（1）事業の認識度

- ①京都シティハーフマラソンは、8割以上の人に認識されている。一方、京都シティマラソン（仮称）の開催が準備されていることについては、本格的な広報をしていないにもかかわらず、すでに約3割の人が認識している。

（2）マラソン大会を京都で開催することについて

- ①約65%の人がマラソン大会は「京都らしい」と感じ、その主な理由は「京都はマラソンのまちというイメージがある」ためとしている。
- ②京都シティハーフマラソンについて、4割近くの人が「市民スポーツや競技スポーツの振興にとってよい」ことで、「休止は残念」と感じている。
- ③京都シティマラソン（仮称）実施については、「京都シティハーフマラソンの実績や京都の魅力を活かし、こうしたスポーツイベントをすることはよいことだ」と半数以上が感じている。

（3）マラソン大会実施に関して

- ①京都シティマラソン（仮称）が開催された場合、約49%の人が「コース沿道で応援」したいと回答し、また、給水や清掃などの手伝いをしたい人が約20%いる。
- ②京都シティマラソン（仮称）が開催される場合には、「環境に配慮し」、また、「交通規制の事前広報をしっかりと行う」大会とすることが望まれている。
- ③京都シティハーフマラソンで「迷惑に感じたことがある」人は、回答者の約1割で、迷惑の内容は「交通渋滞に巻き込まれた」が最も多い。
- ④自宅周辺がマラソンコースになった場合、約66%の人が「応援などで楽しみたい」「よいことなので楽しみたい」「コースになれば誇らしい」と回答し、積極的な評価をしており、「せっかくの休日に迷惑だ」と答えた人は、約4%であった。
- ⑤京都シティマラソン（仮称）開催時には、交通規制による不便を減らすため、「規制時間やう回路に関する十分な事前広報」や「警備員やスタッフによる適切な誘導や案内」が大切だと多くの人が回答している。

II 調査結果の概要

1. 回答者の属性

①性別

区分	人数(人)	百分比(%)
男	508	52.9
女	412	42.9
無回答	40	4.2

②年齢

区分	人数(人)	百分比(%)
20歳代	87	9.1
30歳代	135	14.1
40歳代	170	17.7
50歳代	142	14.8
60歳代	206	21.5
70歳代以上	190	19.8
無回答	30	3.1

③居住地1 (区別)

区名	人数(人)	百分比(%)
北区	83	8.6
上京区	65	6.8
左京区	109	11.4
中京区	69	7.2
東山区	25	2.6
山科区	85	8.9
下京区	47	4.9
南区	48	5.0
右京区	129	13.4
西京区	108	11.3
伏見区	159	16.6
無回答	33	3.4

④職業

区分	人数(人)	百分比(%)
1 自営業・自由業	157	16.4
2 会社員・公務員 など(正社員)	229	23.9
3 会社員・公務員 など(パート)	110	11.5
4 主婦・主夫	204	21.3
5 無職	159	16.6
6 学生	25	2.6
7 その他	34	3.5
8 無回答	42	4.4

居住地2 (京都シティハーフマラソン沿道別)

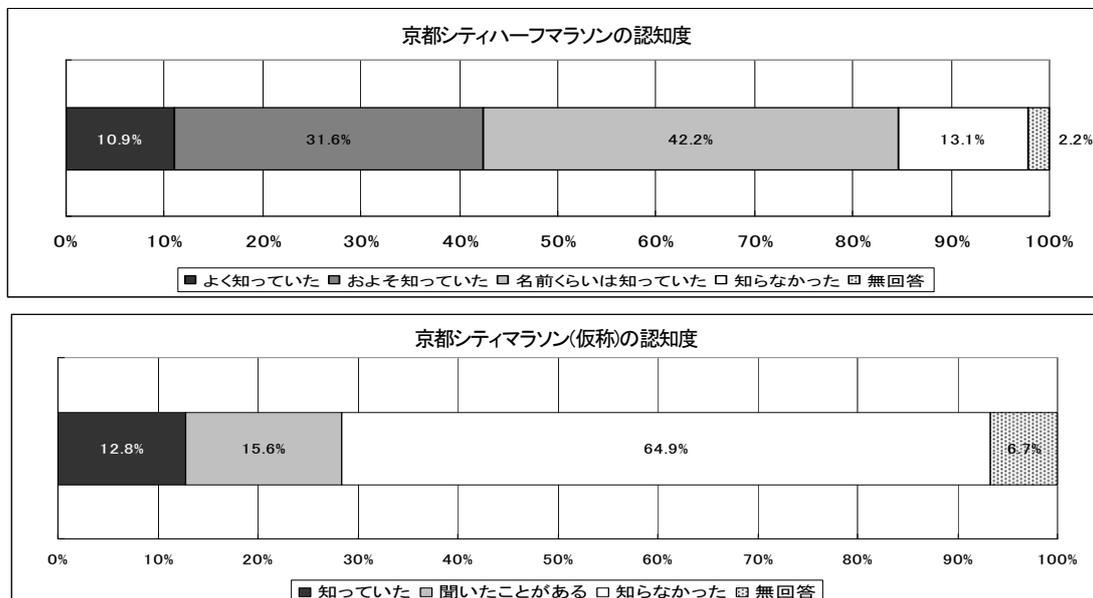
区分	人数(人)	百分比(%)
沿道	118	12.3
沿道以外	727	75.7
無回答	115	12.0

(注) ○ 百分比の合計は端数処理の関係で100%にならないものもある。
○ 複数回答の百分比の合計は100%にならない。

2. マラソン大会の認知度と評価

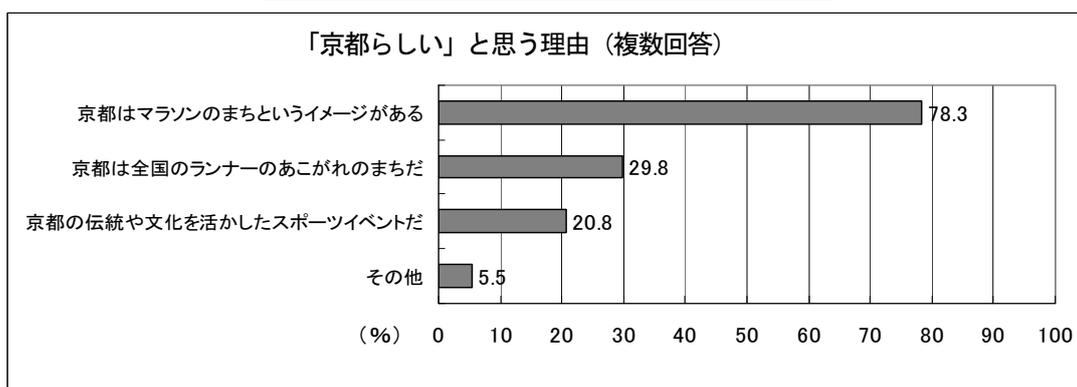
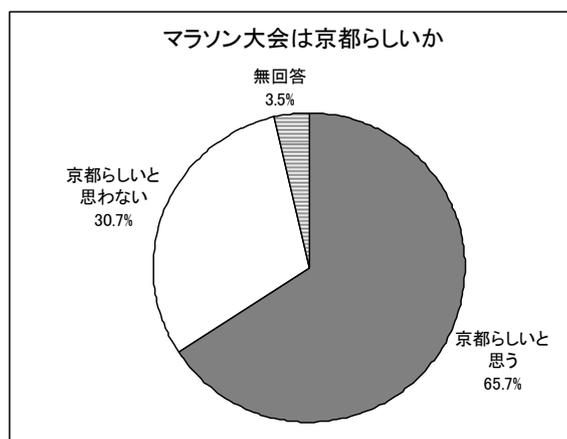
(1) マラソン大会の認知度

- 16回の実績のある京都シティハーフマラソンの認知度は高い。これと比べて、本格的な広報をしていない京都シティマラソン（仮称）の認知度は低い。認知度を高めるのは今後の課題である。

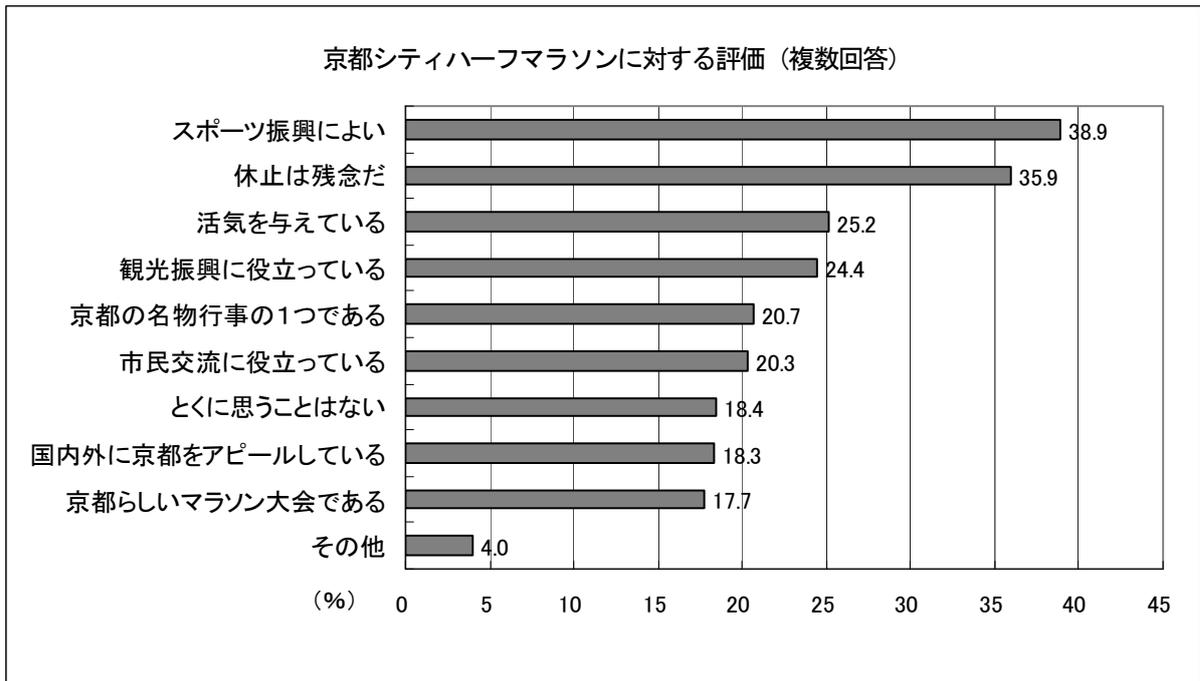


(2) マラソン大会の評価

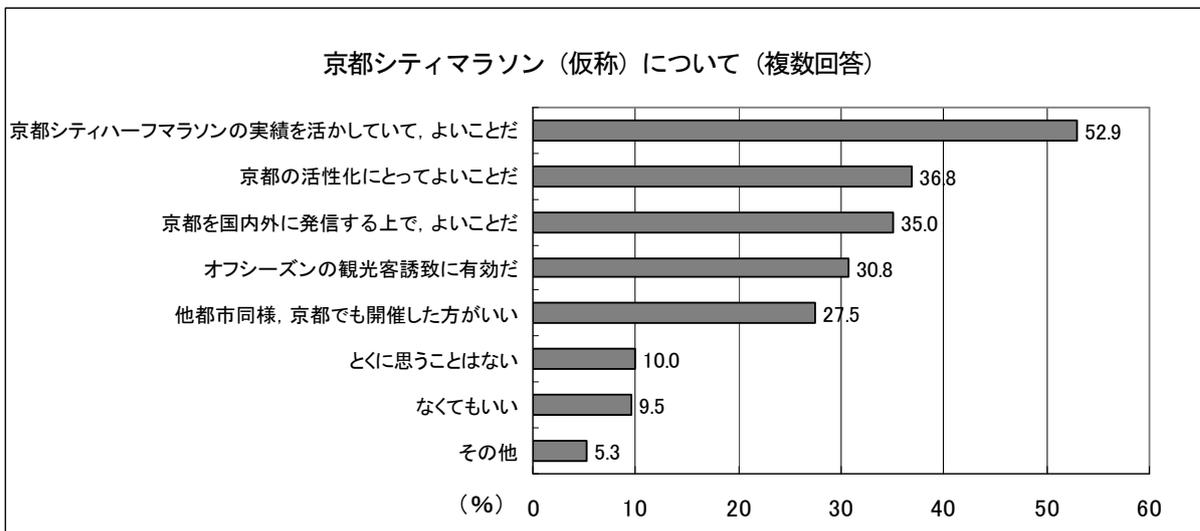
- 約3人に2人が、マラソン大会は京都らしいと思っている。その理由は、京都には「マラソンのまち」というイメージがあるからだとする人が多い。



- 京都シティハーフマラソンは、スポーツ振興に役立ち、まちに活気を与え、観光振興にも役立っていると考える人が多く、休止は残念だと思っている人が多い。

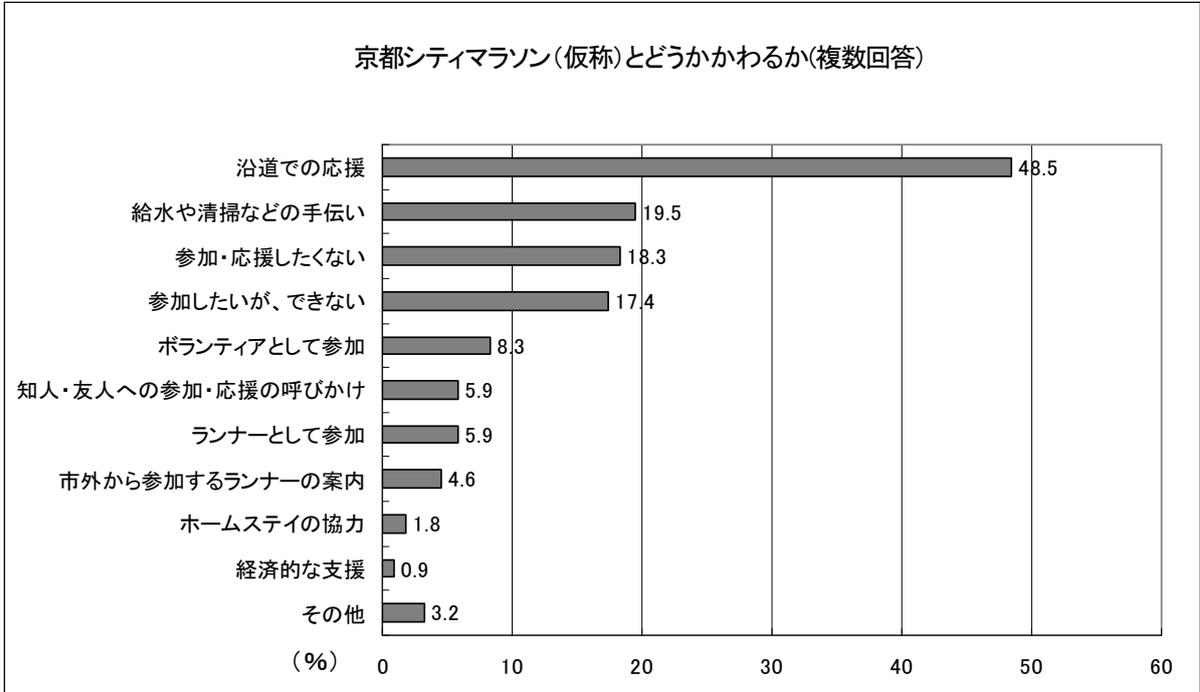


- 京都シティマラソン（仮称）の開催は、ハーフマラソンの実績を活かせる、まちに活気を与える、京都の情報発信、観光オフシーズン対策に有効だと思える人が多い。

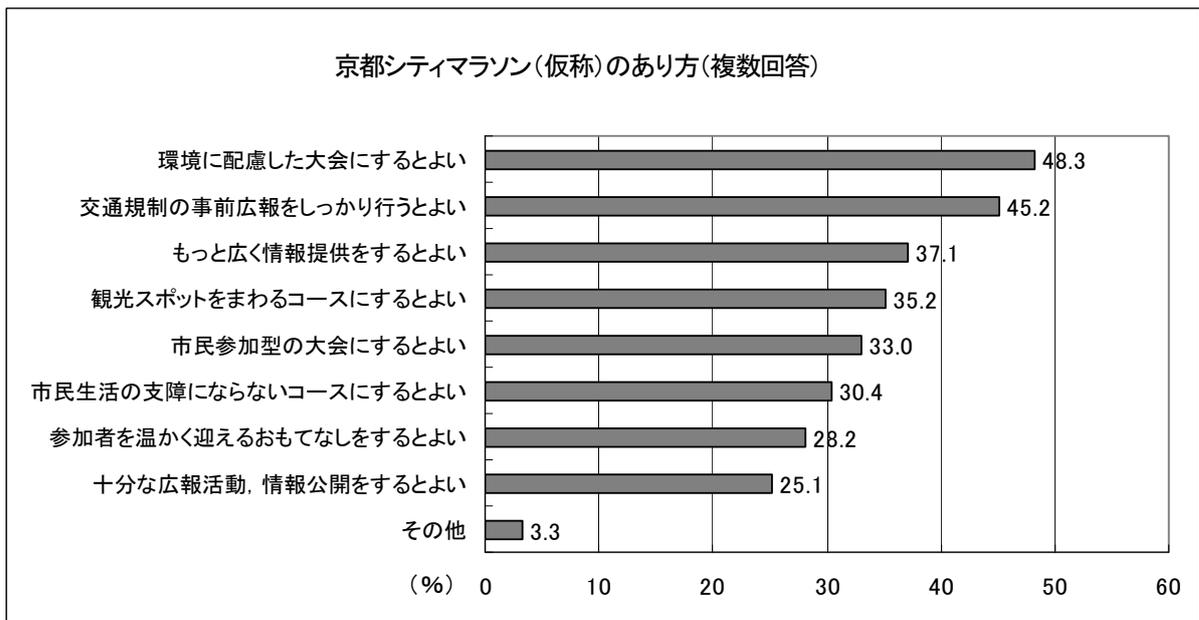


(3) 京都シティマラソン（仮称）のあり方

- 京都シティマラソン（仮称）では、沿道で応援するという人が最も多い（約49%）が、その他に、給水や清掃などの手伝いをしてほしいと考える人も約20%いる。ランナーとして参加したいと思う人は約6%である。いっぽう、参加・応援したくない人や、参加したいができないという人もそれぞれ約20%ある。



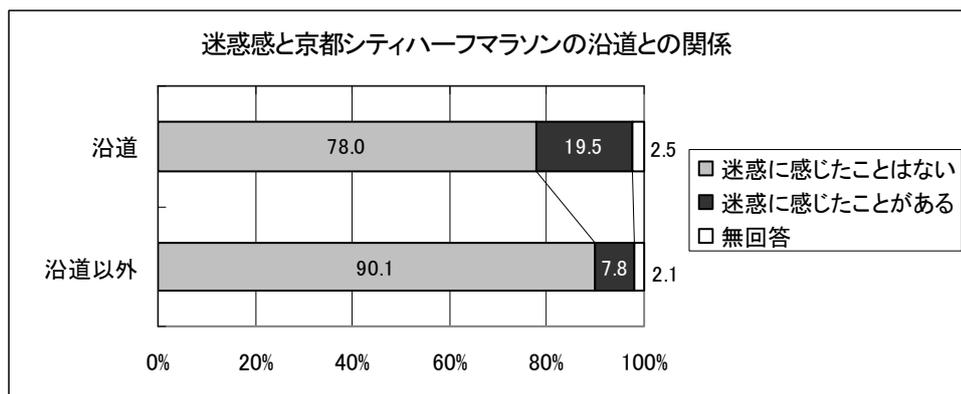
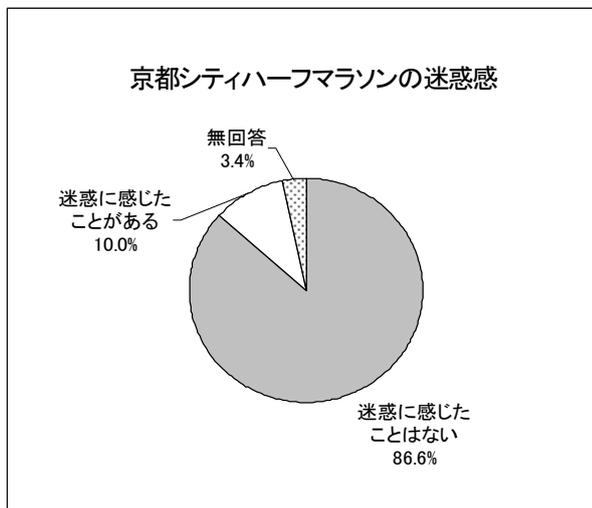
- 京都シティマラソン（仮称）は、環境に配慮した大会にすること、また観光スポットをまわるコースで、市民参加型の大会にすることが望まれている。同時に、交通規制等の事前情報提供や大会の広報活動が大切だと考える人が多い。



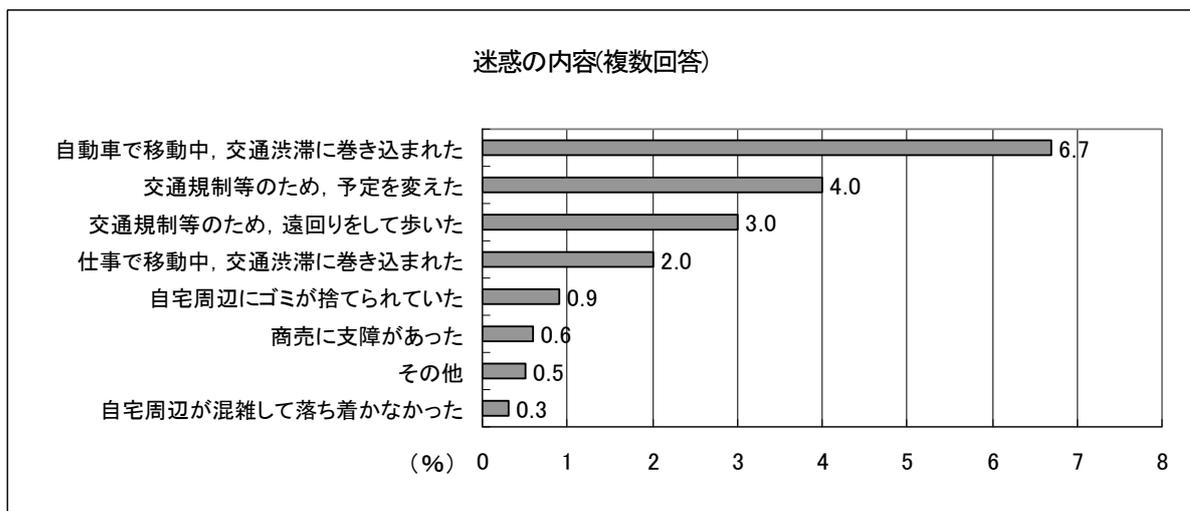
3. 京都シティマラソン（仮称）開催に向けての課題

(1) 京都シティハーフマラソン時の迷惑

- 京都シティハーフマラソンを迷惑だと感じた人は全体の10%で、約87%の人は迷惑と感じたことはない。
- 京都シティハーフマラソンの沿道に住んでいる人のほうが、沿道ではない人に比べて迷惑と感じた割合が高いが、沿道に住んでいる人の約78%は迷惑と感じたことはないと回答している。

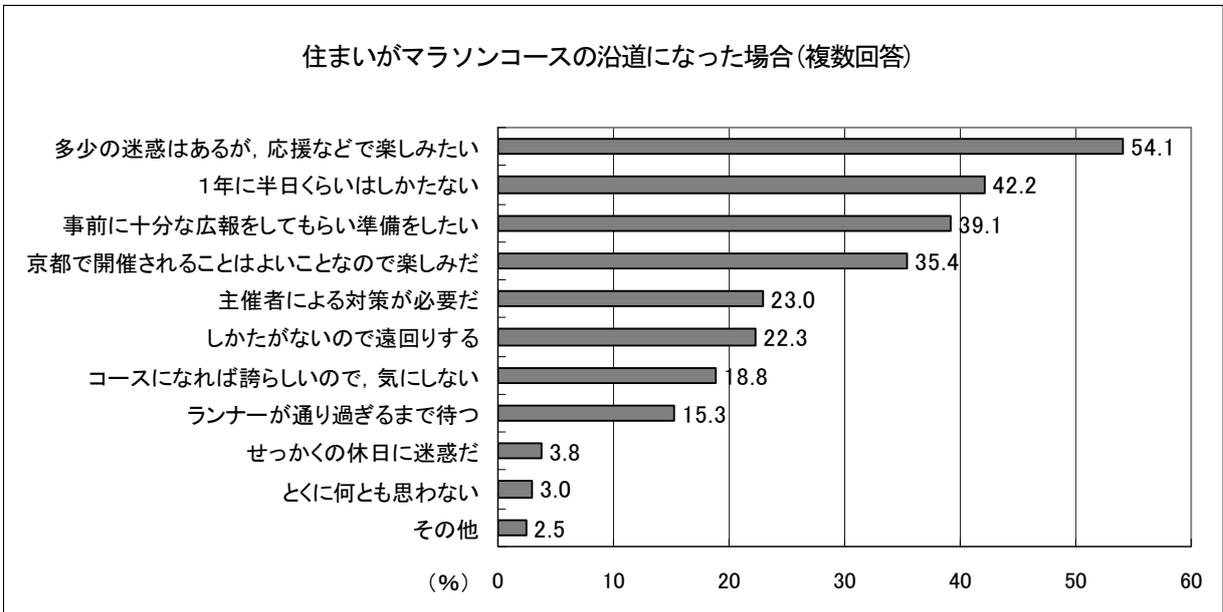


- 迷惑の内容は、交通規制・渋滞関係が多い。

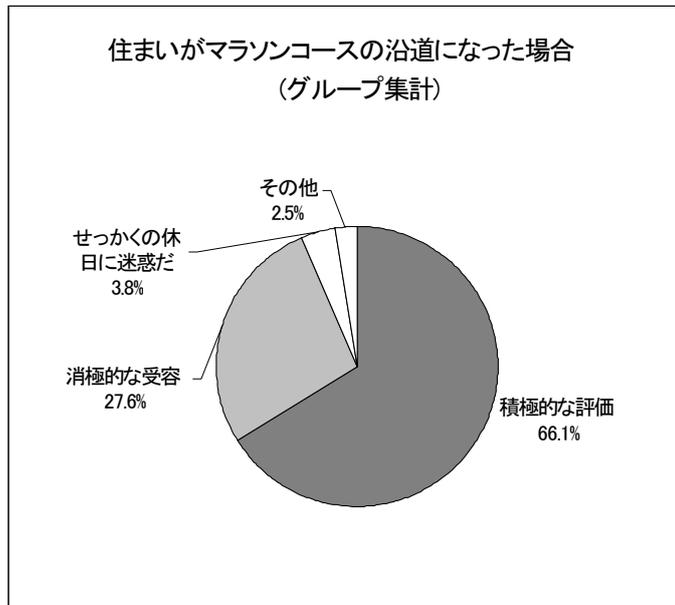


(2) 京都シティマラソン（仮称）開催時の課題

●仮に住まいが京都シティマラソン（仮称）のコースの沿道になった場合、「せっかくの休日に迷惑だ」と答えた人は、全体の約4%と少なく、「多少の迷惑はあるだろうが、応援などで楽しみたい」「1年に半日くらいはしかたがない」と、少しくらいの迷惑はあっても受け入れる人の割合が高い。



●住まいが京都シティマラソン（仮称）のコースの沿道になった場合、「応援などで楽しみたい」「よいことなので楽しみたい」「コースになれば誇らしい」のどれかの回答の人（積極的な評価）の割合と、「1年に半日くらいはしかたがない」「準備したい」「主催者の対策が必要」「しかたがないので遠回りする」「通り過ぎるまで待つ」「なんとも思わない」のどれかの回答の人（消極的な受容）の割合と、「せっかくの休日に迷惑だ」と回答している人（消極的な評価）の割合を比べると、積極的な評価の人の割合が高い。



- 京都シティマラソン（仮称）開催時には、交通規制による不便を減らすために、「規制時間やう回路に関する十分な事前広報」や「警備員やスタッフによる適切な誘導や案内」が大切だと多くの人が回答している。

